

報告2 マリンカルチャーセンターの今後のあり方について

- ターゲットをどこに絞るかを考えて「マリンカルチャー」に着目すると、「さかなクン」のような専門家を年に数回招いて、子どもたちに水産について興味を持ってもらう取組を行ってはどうか。【工藤委員】

- 社会教育施設として、子どもたちにとって海洋の研修ができる場所は大切である。老朽化している施設もあるだろうが、これからも維持できる範囲内で縮減・縮小していくことも一つのやり方である。【三井委員】

- 大規模修繕をする場合、どれぐらい費用がかかるなど試算を行っているか。【内田委員】